

郷土館だより

Vol. 19. No.1

1996. 11. 7



お月見

日本には古来より旧暦8月15日の月を愛でる習慣があります。この夜の月を仲秋の名月と呼び、一年でもっとも美しい月だとされました。家庭では月の見える縁側にススキやハギ・オミナエシといった秋の草花を飾り、団子といっしょにサトイモやサツマイモなど、秋の収穫物も月に供えます。

日本の「お月見」の習慣は、元々は中国の唐時代の風俗が平安時代の貴族の生活に取り入れられ、次第に武士や町民にも広まり、今日に至ったといわれています。農民の間には「イモ名月」という言葉があるように、収穫を感謝する農耕年中行事の一つとなりました。

全国各地にはさまざまな「お月見」の習慣が伝えられています。九州地方には「綱引き」を行う地域があります。鳥取県では、この日は初めてイモを掘る日といい、「芋の子誕生

と呼んだりもします。いずれも農耕儀礼としての「お月見」を伝えるものと言えるでしょう。

また、この地方では、今も「お月見」の夜だけは、子どもたちが近所の人に忍び込んで、お供えしてあるイモや団子を盗んでも良いと言われていますが、さすがにいま実際に盗んだりということはないようですが、祖父たちの思い出話には聞くことができます。

「十五夜」がすんだら次は「十三夜」(旧暦の9月13日)。新暦ではだいたい10月に入ってからのこととなります。やはり、この地方で「片見月」は良くないという禁忌がありますので、「十五夜」を行ったら必ず「十三夜」も行われたものでした。今年の「十五夜」を鑑賞した方、「十三夜」は10月24日ですから、お忘れないように。

平成7年度 三島市郷土館事業報告

郷土館では、常設展示のほか、市民皆様にふるさとの歴史・文化に、より親しみ、理解を深めていただくため、企画展、講座、教室を開催しました。主なものは次の通りです。

区分	事業名	内容	実施日	入館者又は参加者	備考	
常設展示	ふるさとの自然と民俗(2階) 三島の歴史(3階)	三島暦、三四呂人形、農具、下駄作り道具、農家・商家の復元家屋など 旧石器時代から江戸時代までの三島の歴史を展示	年間	82,477人	2・3階 常設展示	
企画展示	三島の成りたち(1)	自然環境・地形・街道を基本に成り立つ郷土三島を歴史的に資料で解説	2月26日) 5月7日	17,605人	三嶋大社関係・ 中世仏教・山中城関係・三島暦関係	
	終戦50年 「三島と戦争」	終戦50年にあたり市民に保存されている資料により戦争当時のくらしと世相を見つめ直す展示とした	7月23日) 9月24日	16,030人	市民提供資料 三島野戦重砲連隊関係 新聞記事関係	
	米作りのくらし	米づくりに関わる人々のくらしを古い農具を中心に展示した	11月19日) 1月28日	13,199人	静岡県指定無形民俗文化財三嶋大社「お田打ち」関係・昔の農具関係・現在の米づくり関係	
	三島の近世の教育	江戸時代の宿場町における三島庶民の教育と明治新政府の教育を展示	3月17日) 5月12日	18,080人	秋山富南・並河誠所・吉原守拙関係・三島饗関係	
教育普及	縄文土器作り教室	夏休みを利用し、土器作りをとおして古代の生活に対する理解を深め学習する体験教室	7月26日 28日 8月25日	対象 35人 参加小学生 5～6年生 35人	土ねり(半日) 成形(1日) 焼成(1日)	
	郷土教室 (体験講座)	機織りと糸つむぎ		6月10日	25人	井上 一雄 先生
		竹細工作り		7月8日	21人	瀬川 到 先生
		古代人の生活(火起こし)		9月9日	16人	池谷 初恵 先生
		農具を使ってみよう		11月11日	7人	鈴木 辰己 先生
	紙飛行機を飛ばそう		12月9日	17人	瀬川 到 先生	

区分	事業名	内 容	実施日	入館者又は 参加者	備 考
教育普及	夏の郷土学習	箱根旧街道を歩く	8月10日	18人	杉浦 幸男 先生
	ふるさと講座	北上地区を歩く	9月28日	市民 マイクロ バス利用 25人	迫田 信行 先生
		錦田地区を歩く	10月5日		辻 真人 先生
		旧三島町を歩く	10月11日		辻 真澄 先生
		中郷地区を歩く	10月18日		伊達 主 先生
	郷土館講座	駿河の国と伊豆の国	12月12日	市民 98人	中野 国雄 先生
		近世後期伊豆における教育と宗教	12月13日	103人	伊東 誠司 先生
		東海道三島宿の助郷の変遷	12月14日	110人	橋本 敬之 先生
	企画展関連講座 「三島と戦争」	三島野戦重砲兵連隊と戦争	8月13日	市民 40人	秋津 亘 先生
	出版活動	「郷土館だより」 の発行	郷土館広報	年 3 回	各1,500部
「浮世絵三島」 絵ハガキ		「浮世絵三島絵ハガキ」の 復刻版増刷	1月発売	3,000部	4枚セット 100円
企画展関連出版		終戦50年「三島と戦争」	7月発売	800部	1,200円
		米作りのくらし	11月発行	2,000部	パンフレット
		三島の近世の教育	3月発行	2,000部	パンフレット
古文書読習研究		「中空の日記」	2月発売	300部	1,200円
「広報みしま」 郷土シリーズ	郷土の歴史や民俗を紹介	毎月1回		全 世 帯	

郷土館講座

「三島の歴史・民俗関連講演会」実施報告

郷土館では、三島市及び近隣地域の駿東郡田方郡も含めた郷土の歴史・民俗をさまざまな角度から眺め、より広く深く三島の成り立ちを理解していただけるような講演会を実施しました。

この郷土館講座（全3回）の結果報告をいたします。なお、会場は、三島市民文化会館小ホール、開演は午後2時～4時（終演）で、無料です。

(1) 「駿河の国と伊豆の国」

日本考古学会会員 中野国雄氏

平成7年12月12日（火）（98人聴講）

伊豆又は伊豆国文献史料として、日本書紀の中に見える「伊豆国と駿河の国」の歴史について言及され、境界をどこに定めるべきか。又、スルガの大形古墳の分布状況を説明され各々の国の自然的・歴史的成り立ちについて細部にわたって論じられました。

(2) 「近世後期伊豆・北駿地域における教育と宗教」

裾野市誌編さん調査員 伊東誠司氏

平成7年12月13日（水）（103人聴講）

はじめに、三島における庶民教育機関の創始者たち、例えば、荏田寿白・並河誠所・福井雪水などの先達たちの塾を開いた歴史を話され、文化と教育その中でも宗祇と定輪寺について考察研究の結果を話され、最後に、宗教と教育の関連性を日能上人と安楽寺の寺子屋での教育活動などを資料に基づき具体例を通して話をされました。

(3) 「東海道三島宿の助郷の変遷」

静岡県埋蔵文化財調査研究第四課長
橋本 敬之氏

平成7年12月14日（木）（110人聴講）

東海道と助郷、助郷制度の変遷、三島宿の経営と在方の村々、助郷を巡る論争についてという順序で話されました。

元禄6年以前と元禄7年の三島宿助郷村ごとの石高を比較して述べられたり、万治元年（1658年）から天保6年（1835年）の180余年

の助郷の歴史を説明されて、密度の濃い講演を結ばれました。



平成8年度

郷土教室 実施報告

市内の小学校4～6年生を対象に、学校の第2土曜日の休業日を利用して、昔の生活や遊び道具の手作りなどを体験してもらう「郷土教室」を今年も実施しました。

本年度予定している5回のうち、既に実施した3回分の結果報告をいたします。

第1回「機織りと糸紡ぎ」6月8日（土）

講師 染色工芸家 井上一雄さん

はじめに、講師の井上先生から「人類は、いつ頃から衣を身につけるようになったのだろうか？」という「衣と人間」についての興味深いお話しや、機織りと糸紡ぎに関するパネル写真を見せてもらいながら説明をお聞きしました。

子どもたちは、世界のいろいろな国々でも同じようなハタオリ道具を使って着る物を織ったり糸紡ぎをしていることに興味を示した様子でした。

お話や説明が終わって、いよいよ「機織り」の実体験をしてみます。

井上先生が初めに模範となる織り方の動作

手と足の動かし方を見せながら布が織りあがっていく原理を説明してくれました。

次に一人ずつ順番に交代で3分間位織り始めました。先生のお手本では、リズムカルに「トントントンカラリシャキ」と軽快な音をたてて、布が織りあがっていきましたが、子どもたちが織ろうとすると、横糸を通す時の動きや手と足がバラバラになり、足踏みのタイミングがぎこちなかったりと失敗をしましたが、序々に慣れてくるとスムーズに織れるようになりました。井上先生が「うまい、うまいよ」とほめてくれると子どもたちも大喜びのようでした。

全員がひととおり「機織り」を終りました。次は「糸紡ぎ」です。

これも、交代で大型のコマ状の道具を回してヨリをかけ、羊毛から毛糸を紡いでいきました。先生のように同じ太さで長く紡ぐのは難しく、子どもたちがヨリあげた糸を見ると太くなったり細くなったりしてじょうずに毛糸ができません。なかには、紡ぎ糸が細くなりすぎて途中で切れてしまいました。

それでも、なんとか全員、自分で糸紡ぎをした毛糸をいただきうれしそうでした。

最後に、先生が織ったコップ敷きの布をプレゼントして下さり、記念写真も撮って、皆良い思い出の一日となりました。

(申し込み者 24人

風邪等で欠席した者7人 参加者17人でした。)



第2回「竹細工作り」7月13日(土)

講師 竹細工研究家 瀬川 到さん

はじめに、ナイフの使い方、特に自分も他人もケガをしない・させない安全なけずり方について注意すべき点のお話がありました。

今日は、「竹トンボ」を材料の竹にはじめから切り込みを入れて、羽根を作っていく方法を教わりました。学校では体験できないことでしたので、子どもたちも、一生けんめいに工作に取り組みました。

ようやく、全員が羽根の形を作り、キリで穴をあけ、柄をつけて、「竹トンボ」が仕上がるのに、午前中いっぱい1時間30分程度かかりました。

昼食後、午後から、皆で外に出て飛ばしてみました。自分で作った「竹トンボ」がよく飛んで、大喜びの子もいれば、あまりよく飛ばず、ガッカリした子もいましたが、先生といっしょに修正し、最後は、全員よく飛ばす「竹トンボ」にして、楽しい一日を過ごしました。

(申し込み者 26人

欠席者 2人 参加者 24人でした。)



企画展『三島の近世の教育』を終了して(結果報告)

～並河誠所・秋山富南・吉原守拙を中心に～

開催期間

平成8年3月17日(日)～5月12日(日)

会場 三島市郷土館 1階展示室

入館者数 18,080人

内訳 小中高 2,712人

一般個人 14,777人

団体(30人以上) 591人

展示内容

(1) 三島の教育者の系譜

江戸時代の三島の漢学塾・寺子屋を紹介し、主な教育者の業績を展示。

(福井雪水・横山玄与・苅田寿白・旭昇・三枝敬之・^{みた}箕田寿平)

(2) 並河五一(誠所)と「五畿内志」

江戸中期、三島で漢学塾を開き、北伊豆から駿河にかけて、多くの人々に、漢学他の学問を授けた。一方、近世地理学の草わけである『五畿内志』を完成させている。

(3) 秋山富南と『豆州志稿』

安久の豪農秋山家から、学者富南が登場する背景を、系図・白隠禅師との交流から考え、富南の偉業『豆州志稿』(伊豆の地理書)を多くの関係資料でたどった。

(4) 吉原守拙と「三島黌」

明治6年開校した近代的小学校「三島校」とその前身である「開心庵舎」を通して、三島の初等教育に尽力した吉原守拙の関係資料を展示した。

(5) 「三島黌」の開校

明治12年、現在の市役所の地に、西洋風様式を取り入れた小学校「三島黌」が新築された。三島宿有志の寄附で落成した学校は宿の誇りであった。折しも、アメリカ合衆国前大統領グラント将軍の歓迎式典がこの「三島黌」で開催された。開校・歓迎式典に関する資料を展示した。

(6) 吉原呼我と「中権精舎」

明治初期、三島に漢学塾「中権精舎」を開校し、後に葦山中学校校長心得となった吉原呼我の関係資料を展示。

(7) 寺子屋から学校へ

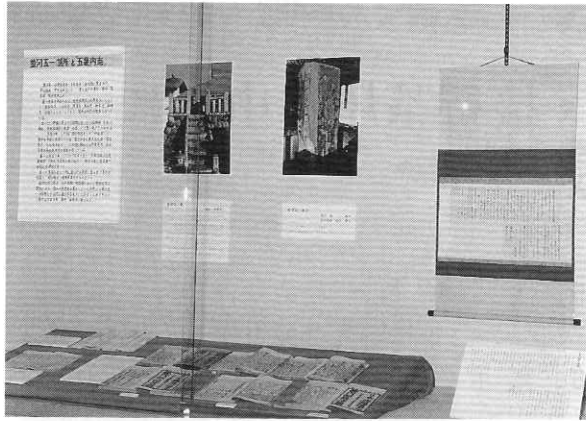
明治6年の学制公布以後、三島にも次々と小学校が設立された。こうした学校の設立に関する資料や明治初期の卒業証・教科書等を展示。

展示資料数

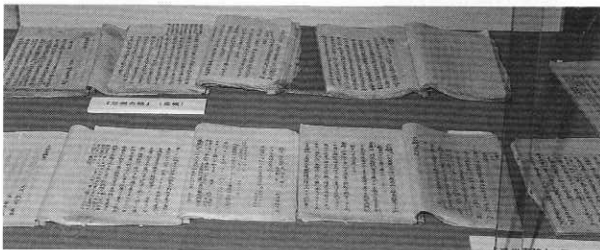
掛軸等	21点
古文書・書籍等	124点
写真パネル	15点
合計	160点



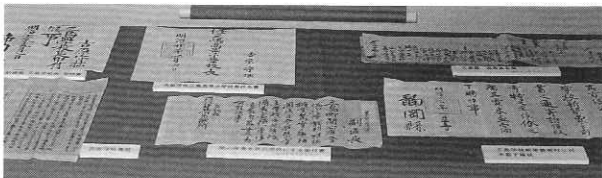
江戸時代～明治初期、三島の庶民教育に寄与した苅田寿白・横山玄与・福井雪水・三枝敬之・旭昇・箕田寿平のコーナー



「並河五一と五畿内志」のコーナー
展示台 右手は五一の編さんした『五畿内志』で
近世地誌の幕開けを告げるものでした



秋山富南が編さんした『豆州志稿』上はその草稿、
書き込みが多く入り、推敲の跡がうかがえます



吉原守拙のコーナー

伊豆で最も早く開校した小学校「三島巒」の開
校に尽力し、晩年まで校長として初等教育に奉職
しました。「三島の聖人」と慕われています

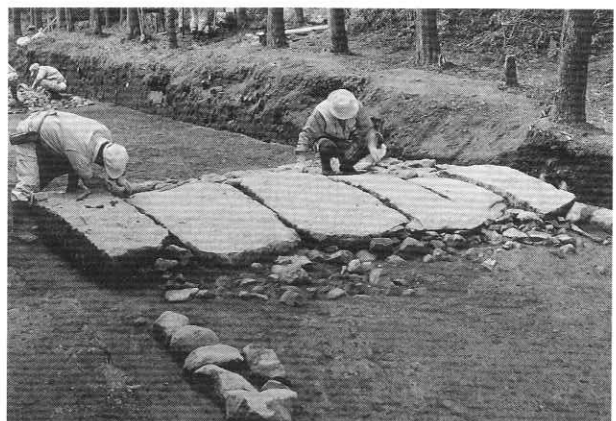
郷土館

企画展関連講演会 開催のお知らせ

三島市郷土館では、平成8年10月20日(日)
～平成9年2月11日(火)に企画展「発掘さ
れた箱根旧街道一石畳・山中宿・接待茶屋を
中心に」を開催します。

この企画展の開催期間中に、企画展のテー
マに合った埋蔵文化財発掘調査報告となるよ
うな講演会を開催しますので、市民の皆様が
多数御来場・御聴講下さることを心より願
い申し上げます。

1. 日 時 平成8年11月13日(水)
午後1時30分 開場
午後2時00分 開演
午後4時00分 終了
2. 会 場 三島市民文化会館 小ホール
(350人満席)
3. 入 場 無料 どなたでも聴講自由です。
“入場整理券”も発行いたしま
せんので当日直接会場へいら
してください。
4. 問合せ 三島市郷土館 (TEL 71-8228)



願合寺石畳から発掘された石橋

平成7年度の発掘調査で位置が不明だった「一
本杉石橋」が発見されました。(山中新田の上)
長さ約160cm、幅約60cm、厚さ約35cmの板状石
が6枚、幅2間(360cm)の旧街道を横切るよう
に架けられています。

三島市郷土館

企 画 展

「発掘された箱根旧街道

—石畳・山中宿・接待茶屋を中心に—」

開催のお知らせ

三島市街の東にそびえる箱根山系は古代より、東国への交通の難所であり、江戸時代は「天下の険—箱根八里」として知られ、東海道を旅する人々が最も苦勞する急な坂道でした。

三島市域の箱根旧街道西坂では旅人の歩行のため各所に石畳が敷かれ、^{あい}間の宿—山中宿は休泊の客で賑わい、箱根峠近くの接待茶屋は無料で湯茶の接待をして旅人の援助をしました。

近年、三島市教育委員会では、西坂の整備事業のため石畳の発掘調査を行い、ほぼその全容が明らかにされました。

また、山中宿の本陣跡や接待茶屋跡も調査が行われ、広範囲の交流を物語る遺物が出土しています。

今回の企画展は、こうした発掘調査により明らかになった箱根旧街道を、石畳の復元や遺構・遺物を中心に文献資料も交えて展示し、繁栄した西坂の往来の状況を探ります。

また、整備された旧街道を歩く人々の参考となるよう、主な史跡を紹介します。

記

1. 展示テーマ 企画展「発掘された箱根旧街道—石畳・山中宿・接待茶屋を中心に—」
2. 展示会場 三島市郷土館 1階展示室（三島駅 南口前 市立公園楽寿園内）
3. 開催期日 平成8年10月20日（日）
～平成9年2月11日（火）
（休館日 月曜、月曜が祝日の時は開館・翌日休 12月27日～1月2日）
4. 入館料 無料（楽寿園入園は有料、大人300円、小人50円）

5. 主 催 三島市教育委員会・
三島市郷土館

6. 展示概要

- (1) 古代の東海道—足柄道から箱根路へ
- (2) 中世の東海道—平安鎌倉古道
発掘された平安鎌倉古道の遺構と遺物
元山中関所
- (3) 近世の東海道—箱根西坂
箱根西坂の石畳の復元
発掘調査から明らかになった石畳・石橋の構造解明
箱根を歩いた人々—旅日記にみる西坂
- (4) 山中宿—三島宿と箱根宿の間の宿^{あい}
山中宿と本陣の全容
繁栄を語る出土遺物（茶碗・ヨーロッパ陶器）
道中記に現れる山中宿
- (5) 接待茶屋
往来を示す遺物（茶碗・相馬焼・古銭）
接待茶屋の施行奉仕とその変遷
- (6) 箱根西坂 史跡紹介

郷土館だより No.55

平成8年11月7日発行

（年3回発行）

編 集 三島市郷土館
住 所 〒411三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 0559-71-8228
FAX 0559-81-3730
発 行 三島市教育委員会